

手外科シリーズ

13. 橈骨遠位端骨折



監修
一般社団法人
日本手外科学会広報委員会



制作
エーザイ株式会社

13

とう こつ えん い た ん こっ せつ
橈骨遠位端骨折

● 症状 ●

手首に強い痛みがあり、短時間のうちに腫れてきます。時に、変形がみられます。指に力が入らず、十分に握ることができません。骨折部は不安定で反対側の手で支える必要があります。手指のしびれが生じたり、後日、母指を伸ばす腱が切れたりすることがあります。



フォーク状変形
よく見られる変形は横から見た場合に、フォークを伏せておいたような形になるのでフォーク状変形と呼ばれる

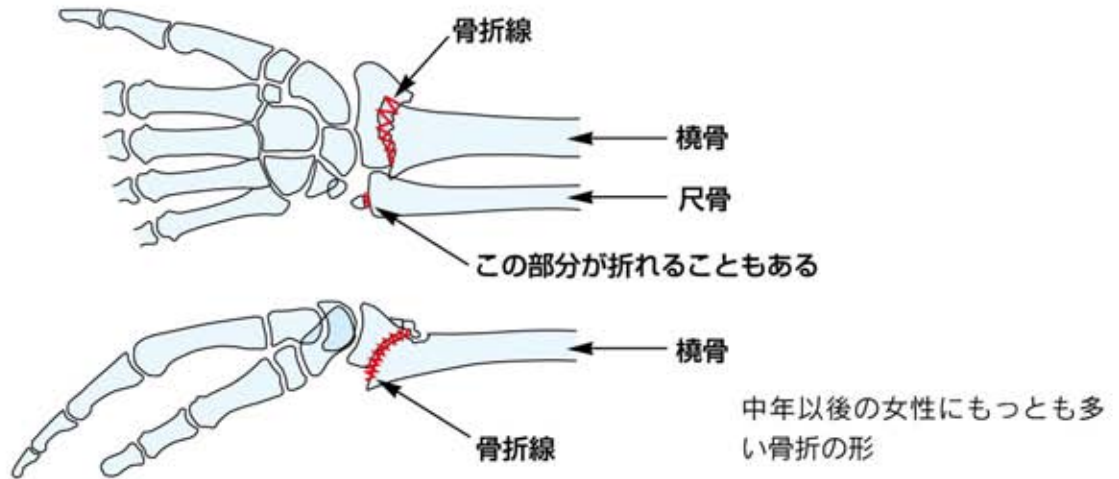
● 原因・病態 ●

中年以後（閉経後）の女性が転んで手を突いて骨折する場合がもっとも多いのですが、若い人でも走っていて転んだ場合のような強い外力が加わると骨折します。



診断

転んで手を突いて、痛み・腫れが出たような場合には骨折が疑われます。診断にはレントゲン撮影が必要です。

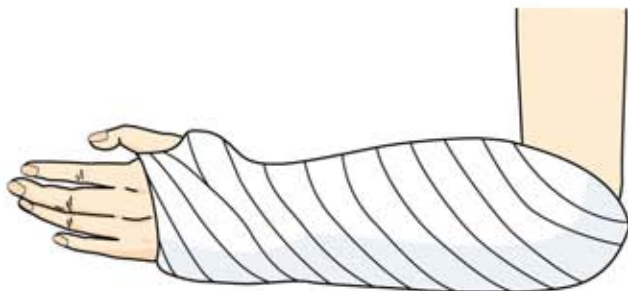


治療

骨折のずれは手を引っ張ったりなどして、もとの形近くに戻し（徒手整復）、ギプスで固定します。ギプス固定中であっても手指はつとめて動かすようにします。

ギプス固定をしてもまたずれてしまうような場合には、手術療法が必要なこともあります。

骨折部の転位が大きかったり、粉碎の強い場合には、最初から手術的に整復固定した方がよいことがあります。



ギプス固定



プレート固定